

韓国人の姿なし

島根県水試
試験船報告 わが標柱そのまま

竹島

【浜田発】去る五月廿八日戦後始めて日本海の孤島竹島を防れ、日韓領土問題に二石を投じた島根県水試試験船島根丸(六二二ト)は十七日再び李ライン深く突っ込み竹島を防れ十八日午後無事母港浜田に帰ってきた。以下は同船に乗込んでいた同水試技師新井都登司氏の現地報告である。

に引返した。同島五カイリ沖でイカつり試験を行ったところ、わずか二時間で二千を水揚げした。いまイカの回遊期だがなんといっても同島付近は回遊魚の宝庫だ。

十六日午前十一時浜田を出港し対馬暖流を調査しつつ十七日午前九時半問題の竹島付近に着く。先にここを防れたときのような韓国漁師の姿が全然見えずもろろん韓国の艦艇一隻にも会わない。ただ三、四十頭のアシカが泳いでいるだけ。午後零時半伝馬船で島に上陸、先に県漁政課が立てた、島根県五箇村領の標柱がそのまま残っている。アシカを追い回して遊んでいたが、午後五時半すぎ本船